

子育て期女性の就労と家事の 相互健康影響: 就労時間と仕事満足

永谷 照男 (Teruo NAGAYA)
名古屋市立大学
大学院医学研究科 公衆衛生学

第77回日本公衆衛生学会 (2018.10.25, 郡山)

目的

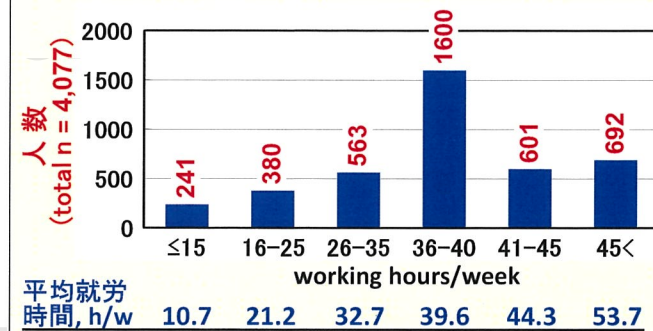
最終目的は、子育て期女性を対象に、**就労**と**家事**の負担が与える相互健康影響の評価。
今回は、働く女性の**就労時間**と仕事満足との横断的関連を示す。

対象者

同意を得た健診受診女性 **5,736名**のうち、
25~49歳の有職者から、重複者、休職者、
妊娠中、同意撤回者を除き、今回の調査項目
に欠損のない
4,077名、平均年齢(sd) = 38.1(5.6) 歳

就労時間

一週就労日数 × 一日就労時間 から
一週就労時間を求め ⇒ 下図の6群に分類。



仕事満足

健診受診時の問診票で、

仕事内容と**給与・身分**について、

「1. 不満、2. やや不満、3. まあ満足、**4. 満足**」
から **4** の選択者をそれぞれに「満足」とした。

結果として、

仕事内容 に「満足」は、**540名** (13.2%)

給与・身分 に「満足」は、**350名** (8.6%)

共変量 5項目 (すべて群変数で multivariate logistic regression analysis に使用)

- 年齢 5群: 5歳間隔
- 治療中疾病 2群: なし/あり, n = 3093/984
- 配偶者 2群: なし/あり, n = 2162/1915
- 子 2群: なし/あり, n = 2700/1377
- 親と同居 2群: なし/あり, n = 2483/1594

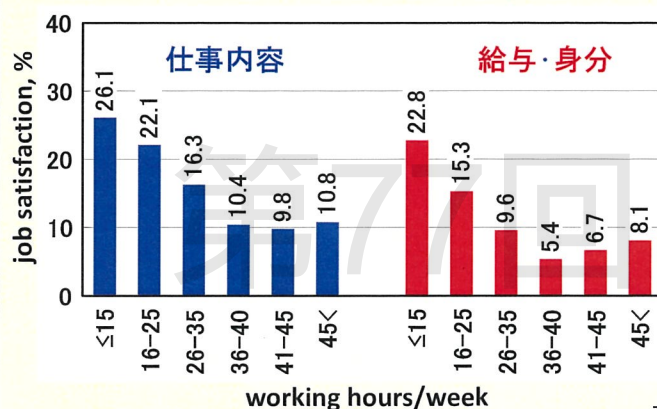
統計処理

一週労働時間の6群で**仕事内容**、**給与・身分**の「満足」人数(%)を確認。

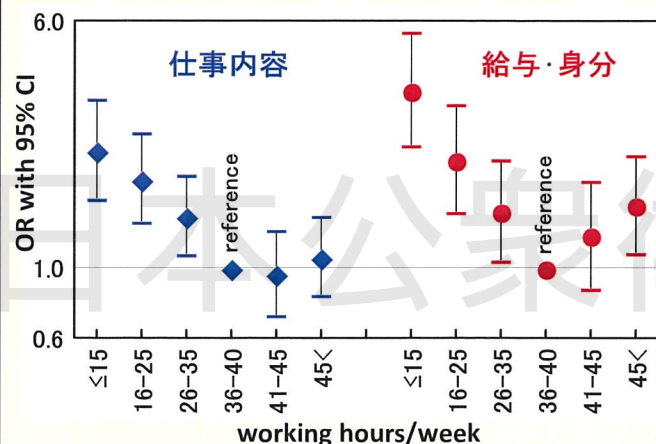
次に、

前記のすべての共変量を含む multivariate logistic regression analysis を用い、
一週労働時間の6群で**仕事内容**、**給与・身分**の「満足」odds ratio (OR)とその95%CIを算出。
このとき、36-40 h/wをreferenceとした。

結果-1 一週就労時間6群の仕事満足% (crude)



結果-2 一週就労時間6群の仕事満足OR (adjusted)



まとめ

働く女性の**一週就労時間**と**仕事満足**の横断的関連を示した。

仕事内容の満足は最短就労時間でもっとも高く、就労時間が長いと低い「L字型」。

給与・身分の満足は最短就労時間でもっとも高く、一方、最長就労時間も高い「し字型」。

* 女性が働きやすい条件・環境は？

対象者を7年間追跡し、女性の**就労**や**家事**が生活習慣や健康に与える中期的影響を示す。

この研究は、

名古屋市立大学 大学院医学研究科 医学系研究倫理審査委員会の承認を得ている (No. 359-4)。

三菱財団、日本健康増進財団、ヘルス・サイエンス・センター、愛知健康増進財団の助成金と
文科省・科学研究費 (23590805, 26460750) を用い、

国際セントラルクリニック (名古屋市中村区、理事長: 内藤靖夫) の多くの受診者と職員の協力で実施している。

COI: none

研究経過を下記 HP に順次開示している。

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>